かわさき 図書館だより

第 14 号
平成19年11月1日発行

図書館ホームページ：http://www.library.city.kawasaki.jp/

レファレンス(調べもの相談)サービスってなあに？

レファレンスサービスとは，必要な情報をお調べしたり，資料を探すお手伝いをするサービスです。
また、図書館では図書館資料に基づいて、寄せられた調査相談（レファレンス）への回答を行っています。
本の所蔵確認から、研究・調査の資料・情報探しまで、お気軽に調査相談カウンターへご相談下さい。

こんな質問がありました

●「七福神について調べたい」

七福神についてのご質問は多く寄せられます。今までにいただいた質問の中から一部をご紹介します。

●「七福神の由来は？」

『七福神信仰事典』（宮田登／編　戎光祥出版　1998年刊　館内閲覧のみ資料です）に298～307p「七福神の成立」（喜田貞吉）が掲載されています。巻末に「七福神文献資料一覧」が収録されており、そのうち川崎市立図書館では『福の神と貧乏神』（小松和彦／著　筑摩書房　1998年刊）、『七福神』（金子和弘／著　木耳社　1989年刊）などを所蔵しています。

●「福禄寿ってどんな神？」

『七福神信仰事典』39pに「七福神のプロフィール」として福禄寿の解説が掲載されています。

●「川崎で七福神めぐりができるのはどこ？」

中原区内の7寺院で「川崎中原七福神」を設定し、七福神めぐりをおこなっています。
安養寺(福禄寿)、宝蔵寺(弁財天)、東樹院(毘沙門天)、西明寺(大黒天)、大楽院(恵比寿)、無量寺(寿老人）、大楽密寺(布袋尊)です。
『川崎中原七福神』（今井清一郎／編者　川崎中原七福神会　1983年刊）
地図はこちらの資料に掲載されています。
『ふるさとかわさきウォーキング　1994年』（川崎市歩け歩け協会　1994年刊）

回答までの流れ

相談　各図書館のカウンター、またはメール、FAX（733－7524）で質問を受付けます。

↓

調査　図書館職員が、図書館の資料や時にはオンラインデータベースなどで関係する資料や情報を探します。

↓

回答　その場で回答できるものから、1週間～10日程度の調査期間が必要なものまで様々ですが、調査内容に応じた回答をいたします。資料の紹介だけではなく、専門機関への案内なども含みます。

資料探しもお手伝い

探している資料の所蔵調査も受付けています。川崎市内に所蔵が無い資料も、県内図書館をはじめ、国内の図書館で所蔵されているかを調査し、回答いたします。（県内に所蔵があるものは取り寄せも可能です）

メールでもご相談を受け付けています

メールレファレンスは**図書館ホームページ「調べもの相談」**からご質問を受付けています。18年4月より図書館ホームページから受付をはじめた「メールレファレンス」では、1年間で265件の相談を受け付けました。「『○○』という本を探しています」といった所蔵調査、「川崎の図書館には何冊本がありますか？」などの図書館に関するご質問、「帰化植物の生態被害は？」「世界の救命救急について調べたい」「お菓子の〔ちんすこう〕について知りたい」など生活の中でふと思う疑問などもありました。また「戦前の川崎駅周辺について調べたい」「市電が走っていた路線を知りたい」などの「川崎の郷土史」についてのお問い合わせは全国から寄せられます。「レファレンスサービス」が、たくさんのみなさまから気軽に利用されることを願っております。

なお次のような質問に直接答えることはできませんのでご了承ください。1．学校の宿題、レポートなど、2．身上相談、医療相談、法律相談、3．クイズ、懸賞の答え、4．人のプライバシーを侵害する恐れのあるもの、5．その他、図書館として回答に適さないと判断したもの

第6回

知っていますか？

姉妹・友好都市

こんな質問がありました～レファレンス事例から～

川崎市立図書館では、川崎に関する郷土行政資料を多く所蔵しています。図書館カウンターでも「川崎」についてのご質問を多くいただきます。その中からよくいただくご質問を紹介します。

「川崎の姉妹都市はどこですか？」

子どもから大人まで、多く寄せられます。一覧は『川崎市　市勢要覧』などの市発行のものに掲載されています。川崎市では12の都市と姉妹・友好都市提携を結んでいます。

【姉妹都市】

[リエカ市]
●昭和52（1977）年6月23日締結●
クロアチア共和国最大の港湾都市です。人口約14万人。

[ボルチモア市]
●昭和54（1979）年6月14日締結●
アメリカ合衆国の東海岸に位置する国際的な工業・貿易都市です。人口約63万人。

[瀋陽市]
●昭和56（1981）年8月18日締結●
中国東北地方最大の都市で、主要な重工業地帯を形成しています。人口約737万人。

[ウーロンゴン市]
●昭和63（1988）年5月18日締結●
オーストラリア東部海岸、シドニーから約80キロ南方にある港湾都市です。人口約18万人。

【友好都市】

●シェフィールド市（平成2（1990）年7月30日締結 ）
ロンドンから北へ200キロに位置し、14世紀以来、刃物・金属食器を中心とした鉄鋼の街として有名です。人口約51万人。

●ザルツブルク市　（平成4（1992）年4月17日締結）
オーストリアのほぼ中央に位置し、昔からヨーロッパの交易路の中心として栄えた町です。人口約15万人。

●リューベック市　（平成4（1992）年5月12日締結）
ドイツのバルト海に面する海運・商業・工業の要衝都市です。人口約21万人。

●富川市　（平成8（1996）年10月21日締結）
ソウル市の近郊に位置する韓国有数の大都市です。人口約85万人。

●ダナン港（友好港）（平成6（1994）年1月24日締結）
ベトナム中部最大の港湾であり、サイゴン、ハイフォンに次ぐ第3の港として位置づけられています。

【国内友好自治体】

●中標津町　（平成4（1992）年7月9日締結）
北海道の東部に位置する酪農の町です。人口約2万4千人。

●富士見町　（平成5（1993）年4月22日締結）
長野県の東南部に位置し、高原野菜や花き栽培を中心とした農業と、清浄な空気と豊かで清冽な水を利用した精密工業や酒造りが盛んです。人口約1万6千人。

●那覇市　（平成8（1996）年5月20日締結）
エメラルドグリーンの海に囲まれた沖縄島の南西部に位置する沖縄県の県庁所在地です。人口約31万人。

【かわさき生活ガイド　姉妹都市・友好都市のプロフィール　URL】
http://www.city.kawasaki.jp/guide/others/ot_5.htm
（総務局交流推進課）

川崎市についての情報は…

図書館の郷土行政コーナーで「意外と知らない川崎市の姿」を探してみませんか？
『市勢要覧』『かわさき生活ガイド』など、川崎市が発行している各発行物も図書館で見ることができます。
「市政だより」バックナンバーなども揃っています。

姉妹都市と図書館　図書館との交流も進められています

富川市は韓国の図書館のトップランナー

川崎市の友好都市である韓国の富川(プチョン)市は、図書館施策や図書館市民運動で、今韓国の先頭を走っています。その富川市の図書館との交流が進められています。

10月末には「日韓草の根図書館交流シンポジウム」が開かれました。

韓国の絵本展示と読み聞かせ、富川市の映像紹介をはじめに、「韓国の図書館はいま」の発表、「日韓が手をつなげば、図書館はこんなに元気に！」の意見交換会などがおこなわれました。

（詳しい内容は次号の「かわさき図書館だより」にてご紹介します）

ご自宅に返却日を過ぎた図書館の本はありませんか？

期限内の返却にご協力下さい

現在、川崎市立図書館では、返却日を過ぎても返却されない資料が多く、対応に苦慮しております。2007年9月の調査では、返却日を一週間過ぎている資料が貸出冊数の13.45%、二週間を過ぎても返却されない資料が7.25%もありました。

図書館では、返却をお忘れの方に、返却を促すメールやハガキをお送りしています。メールアドレスを登録されていない方には督促のハガキを送付していますが、このハガキの枚数は、全館で一年間に約25600枚（2006年度）、費用で約128万円になっています。

図書館の資料はみんなの財産。読みたい人が待ってます！

昨年度は予約の件数が約110万件にのぼりました。借りられている資料にも次の順番を待っている方がいるケースが多いです。資料の貸出期間は15日間です。期限までの返却をお願いいたします。

10月29日～11月11日 かわさき読書週間

読書のまち・かわさき

10月29日～11月11日は「かわさき読書週間」です。11月10日には「第5回かわさき読書の日のつどい」が開催されます。この期間、川崎市立図書館ではいろいろなイベントを行っています。その様子と、これから行われるイベントをご紹介します。

＊事前申し込みが必要なもの、また変更する場合などありますので、イベントについては各図書館にお問い合わせください。

中原区では10月12日～10月17日に中原市民ギャラリーにて「なかはら“こども”としょかん本の森」を開催しました。図書館ボランティア講座、絵本の読み聞かせ、オススメ本の紹介、区内小学校図書室紹介、リサイクル本の配布等がおこなわれました。

宮前区では 10月19日～10月24日、宮前市民館ギャラリーにて「みやまえ・本とお話の一週間」を開催しました。区内小中学校の児童生徒の作品、区内グループ活動紹介など展示コーナー。わらべうた、おはなし会、図書館ツアーなどの企画などが行われました。

その他こんなイベントが行われました。

川崎図書館、大師分館　田島分館（3館合同企画）
- 「おはなしキャラバン」（10月27日、28日）

幸 図書館
- 「語りの会ストーリーテリング幸」による「大人向けのおはなし会」（10月30日）
- 「幸えほんの会・秋のおはなし会」（10月31日）

中原図書館
- 「なかはら“こども”未来フェスタ」参加（9月22日　場所：中原区役所）

高津図書館
- 「紙であそぼう～紙を使った実験と工作」（10月10日）

多摩図書館
- 「秋のおはなし会」（10月28日）
- 「飛び出すカードをつくろう!」（10月28日）
- 「訪日記念おはなし会　=日韓図書館交流=」（10月30日）
- 第11回読書普及文化講演会 <常田富士男の「あったか話」>（10月31日）

11月はこんなイベントを予定しています。

幸 図書館
- 「レザミの会」による朗読会（11月7日　＊事前申込要）
- 「国際子育てクラブトントン」おはなしワールド（11月14日）

高津図書館
- 「図書館探検ツアー」（大人向け）（11月2日　＊事前申込要）
- 図書館で活動しているグループや学校の活動紹介、読書標語、ポスター等展示（10月29日～11月11日）

多摩図書館
- 青空シアター「中庭での楽しいおはなしタイム!」（11月3日、4日）
- 図書館・学校で活躍しているボランティアグループの活動紹介、読書標語、読書感想画、「えほんだいすき」「かわさき読書100選」等の展示（10月29日～11月11日）

麻生図書館
- 「大人のためのおはなし会」（11月14日　＊事前申込要）
- 「図書館探検ツアー」（大人向け）（11月16日　＊事前申込要）
- 「あさお福祉まつり」参加　（11月18日　麻生区役所中庭）障害者サービスを中心とした図書館PR展示・紙芝居や絵本の読み聞かせ等

かわさき歴史めぐり (13)

徳川氏の関東入国と川崎市域－13－

法政大学名誉教授
村　上　　直

矢倉沢往還（大山道）の道端には、道標（みちしるべ）が立っています。世田谷村を経由する道筋が、彦根藩の領地を管轄した代官大場家の屋敷（世田谷代官屋敷）方へ曲がり、ここから西南に分岐していく地点に、かつて道標がありました（現在の世田谷区弦巻5丁目付近）。この道標は、今は代官屋敷に隣接する世田谷区立郷土資料館（世田谷区世田谷1丁目）前に移設されています。正面には「左.　延享三丙寅（ひのえとら）年七月吉日　大山道.　世田谷上宿同行五十人」とあり、左面には「右　登戸道.　本願主石田十右衛門」と刻んであります。これで大山道と登戸道の分岐点を示していることが分かります。この道標によりまして延享3年（1746）の9代将軍家重の治政の頃には、大山道と登戸道を利用する人びとがかなりいたことが想像されます。

なお、寛延2年（1749）に建立された道標によりますと正面には「左　相州通.　大山道」、下には「当所三軒茶屋.」とあります。左面には「右.　富士世田谷・登戸道」下には、世話人名が刻んであります。なお、右面には「此方二子道」その下に同じく世話人名があります。裏面には「寛延二己巳（つちのとみ）年建立・文化九壬申（みずのえさる）再建」とあります。そして両脇には四字熟語の「天下太平・国土安穏・五穀成就・万民家楽」が刻んであります。

これは、当時の庶民や旅人たちが、常に祈願していた事柄であるといえましょう。（世田谷区石造遺物調査報告書Ⅳ・「道標および供養塔」）

さて、この道標にある登戸道とはどのように理解されているのでしょうか。かつては津久井道または津久井往還・津久井往来などといわれていました。その場合は、世田谷村で矢倉沢往還から分かれ、登戸の渡しを過ぎて、登戸・生田（いくた）・柿生（川崎市域）を通り、西進して厚木や津久井地方（相模国津久井郡周辺。神奈川県の北西端に位置する山間の郡）に通ずる道であり、津久井の薪炭や絹・生糸などの江戸への輸送路として利用されていたといわれていました。これは『新編武蔵風土記稿』の登戸村の項に「村内一条の道を開けり、相模国津久井辺に往来せり」と記してあることから、津久井への道筋が想定されたといえます。ちなみに登戸では、この道を江戸道と呼んでいたようです。

しかし、実際には登戸道は江戸に通じる道であったとしても、むしろ、川崎市域の北部から町田市（東京都）方面47か村（橘樹・都筑郡）の人々が利用し、また、黒川炭（麻生区の黒川村を中心に生産された炭）の江戸への輸送路、甲州道中の布田（ふだ）宿（東京都調布市）の助郷（すけごう）へ赴く人びとのルートであったといえます。勿論、その中心をなしたのは宿場的な集落が形成されていた登戸でした。こうしたことから、道標にある登戸道は「武相登戸準往還」と呼ぶ方がふさわしいといわれます（『川崎市史・通史編2.　近世』平成6.　三輪修三『東海道川崎宿とその周辺』）。

蔵書点検のための休館

下記の日程で蔵書の点検を行います。期間中は休館となり、ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。

麻生図書館　12月3日（月）～ 12月8日（土）

なお、他川崎市立図書館の今年度の蔵書点検は終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

編集・発行　川崎市立中原図書館　〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417　TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011)　高津図書館(822-2413)　麻生図書館(951-1305)　大師分館(266-3550)　橘　分館(788-1531)
幸　図書館(541-3915)　宮前図書館(888-3918)　田島分館(333-9120)　柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932)　多摩図書館(935-3400)　日吉分館(587-1491)　菅閲覧所(946-3271)